

## 今週のメニュー

### [トピックス](#)

大阪ファイル・バインダー協会夏季研修会で講演  
- 塩ビを巡る最近の動向について -

### [随想](#)

オックスフォード便り（その8）

関東学院大学 織 朱實

### [編集後記](#)

## トピックス

### 大阪ファイル・バインダー協会夏季研修会で講演 - 塩ビを巡る最近の動向について -

最近、塩ビの復権に興味を持たれて、一度お話しを聞いて見たいとお声を掛けて頂くことがあり、広報担当として、ありがたいことと思っています。

今回は、日本ビニル工業会の会員でもあるアキレス(株)大阪支社を通じて、大阪ファイル・バインダー協会からご依頼があり、8月10日に大阪市中央区の文健会館で「塩ビを巡る最近の動向」の演題で講演を行いました。



研修会の様子

大阪ファイル・バインダー協会は1956年に設立され、今年で54年目を迎えられます。初代会長に田中経人氏（当時リヒト産業(株)）が就任し、現会長は西川雅夫氏（セキセイ(株)社長）が2002年から就任されています。JIS規格の制定とその対応に尽力され、親睦と話し合いに集まれた会社団体が創立されたと同っています。文具業界の一翼を担い、日頃から環境問題にも関心が高く、2004年から夏季研修会を開催され、今回で7回目を迎えられました。その間、「三層発泡PP」、「間伐材」、「バイオプラスチック」などをテーマに取り上げて、専門家の講演を熱心に勉強されています。

今回の研修会は、西川会長のご挨拶に続いて全日本紙製品工業組合の杉浦副理事長のご挨拶があり、塩ビが登場した頃のお話がありました。講演では、塩ビの歴史、ポリマー構造から来る塩ビの特徴、LCAなどの環境特性、リサイクル支援制度の成果、社会貢献の実例、メディアのポジティブな記事などの紹介を行い、最近の塩ビを取り巻く環境をお話ししました。参加された会員会社は関西を中心に29社56名に上り、熱心な質問も頂きました。講演後、近くの会場で懇親会が開催され、日本ファイル・バインダー協会の田中経久会長（(株)リヒトラブ社長）はじめ業界のリーダーの方々とお話しをする機会を頂き、大阪の元気を貰いました。

風評被害に喘いできた時代と隔世の感がありますが、塩ビの特長を素直に理解して適材適所で使って頂くことが普通になってきたと思っています。紙や他のプラスチックの組合せで、それぞれが持っている特長を活かして、製品としての特長につなげていくことが、本来の競争力を生んでいくものと思っています。ペーパーレスの時代にあっても、情報の整理と活用に益々重要性を持つファイル・バインダーとしての役割に、印刷性、耐久性、革に近い肌合い、コストパフォーマンスなどで、少しでも塩ビ素材が貢献出来ることを願っています。

今後も、塩ビの話聞いてみたいと思われる業界団体や個別企業が居られれば、気軽に声を掛けて頂きたく、楽しみにお待ちしております。(了)

## 随想

### オックスフォード便り(その8)

関東学院大学 織 朱實

オックスフォードでの生活も、いよいよあと数日とせまってきました。最初は、1年は随分長いな、と思っていたのが終わってみれば「あっ!」という間の1年でした。最後のチャンスということで、英国内をいろいろ回っています。ねっからの旅行好きなので、最後の最後まで、ウェールズ中央、スコットランドのエジンバラ、グラスゴーはもとより最北のリングストーンのあるオークニ諸島、ネス湖のインヴァネス、グレンゴウ渓谷のフォトウィリアムなども見て回りたいと思います。

英国に来て、実感したのは「英国という一つの国があるわけではないな」ということです。英国が、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドから成り立っていると知っていても、気候、風土、ものの考え方、習慣、人々のたたずまい、家の壁の色さえもこれほど英国内の地域によって異なっているとは思いませんでした。「英国」というひと固まりで、とらえることができないな、と実感した1年間の英国生活でした。

さて、オックスフォードの生活の中でもあまり日本では知られていない様子をご紹介します。今まで「五月祭り(メイ・デー)」

「エンシーニア」と紹介してきました。さらに、オックスフォードで有名なのは初夏の風物詩にもなっている「ボートレース」ですが、これは残念ながら機会がなくて見るできませんでした。

この他、ほとんど外部の人は知らないイベントとしては、毎年7月に行われるオックスフォードの街をあげてのイベント「アリスデー」があります。世界的に有名な「不思議の国のアリス」ディズニーのアニメーションが歌とともに有名ですが、最近では、ジョニ・ディップ主演で映画にもなっていますね。





作者は、オックスフォード大学の中でも老舗のカレッジクライスト・チャーチの数学の教師、ルイス・キャロル氏。彼が、学長の三姉妹の二女アリスにせがまれて作ったお話です。オックスフォードのあちらこちらに物語のエピソードをみつけることができます。



そんな「アリスの街」オックスフォードで、この日はあちらこちらで、アリスに関連するイベントが開催されます。たとえば、オックスフォードの中央図書館ボードリアン図書館ではダリのアリスの絵本が展示され、中庭ではアリスと白ウサギの追いかっこのイベント、ドウドゥ鳥のはく製が有名なオックスフォード自然史博物館ではアリスのミュージカル、オックスフォード市博物館ではアリスに関連した展示品をたどるスタンプラリー、牢獄としても使われていたオックスフォードキャッスルでは赤の女王とトランプたちと子供のゲーム、色とりどりの花が美しい植物園でもアリスのダンスが開催される等々。



街の中にアリスに扮装した子供たちがあふれかえり、ミツバチ色の古い古い石造りの廊下で、白いエプロンをひるがえした少女とすれ違い、ふと顔をあげると白ウサギの恰好をした男性がにやりと笑っていく、というなかなかできない経験をすることができるのです。町中にあふれかえっているコスチュームを見ると欧州の人たちは、仮装を楽しむということにかけては長い歴史があるのだな、とつくづく思います（恥ずかしがらずに堂々と大人も子供も雰囲気を楽しんでいるのです）。



いろいろなイベントがありましたが、私的にメインのイベントだったのはアリスの物語のまさに生まれた場所でもあるクライスト・チャーチでの子供たちのお茶会。参加資格は「アリスの物語のキャラクターに扮装した子供」ということで、私の息子も「キチガイ帽子屋」の格好で参加。一般には公開されていない中庭の庭園にテーブルがしつらえ、アリス、赤の女王、キチガイ帽子屋（実はみんなクライスト・チャーチの学生さん）さんと、

なんとバンドも入りみんなでゲームをしたり、アリス研究者の先生からアリスの物語がどうやって生まれたかの話をまさにその場で聞くことができます。まさにオックスフォードならではのイベントでした。

というわけで、今回はまだまだ掃除も荷造りも終わっていないどたばたの中での原稿ですが(本当に、これで無事に帰国できるのでしょうか?とあせりまくっています。掃除が!掃除が!荷造りが~ということでドラえもんのポケットが切実に欲しい状態です。もっと前から準備しておけよ!ということでしょうか) 次回はスコットランドの様子をお知らせしたいと思います。

オックスフォードの様子の写真もっと見たい方は、私のブログもよろしければ見てください。

<http://akemiori.blog67.fc2.com/>

(つづく)

前回の「オックスフォード便り(その7)」は、下記からご覧頂けます。

[http://www.vec.gr.jp/mag/278/mag\\_278.pdf](http://www.vec.gr.jp/mag/278/mag_278.pdf)

## 編集後記

9月に入りましたが暑い日が続いています。真夏日の数が新記録となったとか、その日の最高気温を聞くと天気予報を見るだけで余計に暑く感じてしまいます。

昨日は「防災の日」で防災訓練に参加された方も多いかと思います。この日は関東大震災と台風が多く来る二百十日に当たることから定められたと聞いています。台風というと、今年は少なく被害も小さくて済んでいるようです。その代わりに各地でゲリラ豪雨が多く発生し、被害も多く出ていますので、防災対策は必要ですね。この異常気象もCO2と関係するのでしょうか?

早く涼しい秋が来てほしいと願っています。(可)



## 関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)